

## 京都府レッドデータブック鳥類の第3版改訂レッドリスト(2021年3月)の報告

須川 恒(鳥類改訂分科会代表)

### レッドデータブックは自然財の目録

レッドデータブックは、地域の生物多様性の保護を社会的にも進めることができる仕掛けで、次世代に伝える自然財の財産目録である。財産目録がないと、開発や乱獲などでいなくなっても(泥棒に盗まれていても)誰も気づかない。1990年代に入って国のレッドデータブックが作られ、2000年代になって、都道府県単位に地方版のレッドデータブックが作られるようになった。

### ほぼ10年ぶりに改訂

京都府では2002年出版のレッドデータブックが10年たつため、2011~2012年の2年間をかけて2012年に改訂レッドリストを作成した。その後2015年に第2版レッドデータブックとして出版され、ウェブ版も公開された。第2版からまだ10年はたっていないが、多くの分野の改訂を一挙にすることは予算的にも困難なので、2019~2020年度の2年間にまずは乳類と鳥類のレッドリストの改訂を行って3月に京都府に報告し、京都府から公開された。今後他の分野の改訂も進めて、2026年に第3版のレッドデータブックとして出版される予定である。

### 改訂に活用できた情報

レッドリストの改訂には以下のような多くの野鳥観察者や鳥類標識調査者などによる多数の情報を活用させていただいた。特に、京都府からの委託を含む日本野鳥の会京都支部の調査結果を多く参照させていただいた。

- 1) 府内野鳥観察者へのアンケート
- 2) 京都府鳥類目録2016。(日本野鳥の会京都支部)
- 3) 京都府鳥類標識調査俯瞰情報(50年間弱)
- 4) 京都府鳥獣保護区調査まとめ(府・京都支部)
- 5) 桂川調査、宇治サギ類調査報告(京都支部)
- 6) 京都府ガンカモ類生息調査(1月実施)府が支部へ委託、環境省よりウェブ公開
- 7) モニタリング1000海鳥(冠島・杓島)、環境省よりウェブ公開
- 8) 京都府における狩猟情報、環境省よりウェブ公開
- 9) 全国繁殖地分布調査中間報告、NPOバードリサーチよりウェブ公開

### 改訂作業

地方版の鳥類のレッドデータブックは、その地方の記録種の目録から、まず迷行種や情報不足種、多数種を除いて対象種を絞る。野鳥は渡りをする種も多いから、対象種を繁殖個体群、越冬個体群、渡り個体群ごとに、個体群の規模や、減少の程度を明らかにして、希少カテゴリーを判定した。

### 掲載種数

今回の第3版の改訂では鳥類は114種がレッドリストに掲載された。

希少カテゴリー別の種数は、絶滅寸前種が15種(8種)、絶滅危惧種が49種(48種)、準絶滅危惧種が48種(50種)、要注目種が2種(2種)、計114種であった(( )内は2015年の第2版における種数)。

京都府では第2版時点では344種が記録され、このうち31.5%の108種がレッドリスト種であった。第3版ではベースとした346種(外来種20種を除く)の記録のうち32.9%の114種がレッドリスト掲載種である。京都府で記録される鳥種の約3割が、何らかの希少性の指摘がされ保護する必要があるという状況に変化はない。

生息環境別に種数を見ると、海域・海岸域・離島が18種(17種)、河川・池沼・ヨシ原が18種(17種)、水田・畑地・草地が32種(31種)、山地・山林が43種(40種)、都市緑地など他の環境が3種(3種)、計114種であった(( )内は2015年における種数)。

基本的なパターンは変わっておらず、府内の山地・山林などの森林環境とともに、海岸域や河川、水田などの湿地環境が鳥類の生息環境として重要であることが、あらためて確認された。

### 改訂された主要点

第3版の改訂作業を通して、特に希少性がランクアップした種(例えば準絶滅種から絶滅危惧種へのアップなど)を通して京都府の環境別に鳥類相について特に気づいた点は以下である。



コルリ

- 1) 森林においてはシカ害による下草の減少が原因と思われる種のランクアップが目立つ。コマドリ、マミジロ、コルリ、クロジで、営巣情報が減少した。
- 2) 河川では中州の環境変化が原因と思われるランクアップ種があった。コアジサシ、シロチドリ  
の営巣情報の減少である。一方で、河川のヨシ原  
の変化が原因と思われるランクアップ種もあった。  
ヨシゴイの営巣期の確認情報の減少、チュウヒ、  
ツリスガラの越冬情報が減少した。
- 3) 農耕地の変化が原因と思われるランクアップ  
種があった。コミミズクの越冬情報の減少、アマ  
サギの営巣情報の減少である。
- 4) 一方で、小規模であれ営巣を開始したためラ  
ンクインした種があり注目される。コヨシキリ、  
ホオアカ、キクイタダキである。

て鳥類生息環境の保護や普及啓発に活用するためには、市町村単位にどのような鳥類が生息しているかを示すことが必要と考える。市町村単位に鳥類リストをつくり国や京都府のレッドリスト種をまとめて示している市町村は、府内にはまだ少ない。

また京都府には希少野生生物保全条例があり、希少野生生物として鳥類も5種(ブッポウソウ、コアジサシ、オオタカ、ヒメクロウミツバメ、タマシギ)が指定されていて、さらに追加指定する道もある。しかし、保全条例を活用してどのように保護につなげていくか、鳥類についてはいまままでほとんど動きがなかった。市町村別の鳥類リストをつくることは、レッドリスト種への注意を喚起し、希少野生生物種を指定する活動への第一歩にもなると思う。地域単位に幅広い分野の方々と連携する道が開けてくると思う。

今後の課題

京都府内で鳥類のレッドリストの情報を活用し

第3版改訂レッドリスト

絶滅寸前種	15種	ウズラ、オオハクチョウ、カラスバト、 <b>ヨシゴイ</b> 、ミゾゴイ、 <b>シロチドリ</b> 、 <b>コアジサシ</b> 、カンムリウミスズメ、 <b>チュウヒ</b> 、イヌワシ、コノハズク、 <b>コミミズク</b> 、ブッポウソウ、 <b>マミジロ</b> 、 <b>クロジ</b>
絶滅危惧種	49種	<b>コハクチョウ</b> 、クロガモ、ヒメクロウミツバメ、コウノトリ、 <b>ササゴイ</b> 、クロサギ、クイナ、ヒクイナ、 <b>カッコウ</b> 、ヨタカ、ヒメアマツバメ、ヤマシギ、アオシギ、ハリオシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、 <b>コアオアシシギ</b> 、ソリハシシギ、トウネン、オジロトウネン、ヒバリシギ、 <b>ハマシギ</b> 、タマシギ、ツバメチドリ、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、ハイイロチュウヒ、ツミ、オオタカ、サシバ、クマタカ、オオコノハズク、トラフズク、アカショウビン、ヤマセミ、オオアカゲラ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、 <b>ツリスガラ</b> 、 <b>コヨシキリ</b> 、 <b>トラツグミ</b> 、 <b>コマドリ</b> 、 <b>コルリ</b> 、 <b>コサメビタキ</b> 、 <b>ホオアカ</b>
準絶滅危惧種	48種	ヤマドリ、オシドリ、シマアジ、トモエガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、アオバト、オオハム、 <b>シロエリオオハム</b> 、ヒメウ、 <b>アマサギ</b> 、チュウサギ、ジュウイチ、ツツドリ、タゲリ、ムナグロ、イカルチドリ、セイタカシギ、オオジシギ、チュウジシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、クサシギ、キアシシギ、イソシギ、ウズラシギ、ハイタカ、ノスリ、フクロウ、アオバズク、アリスイ、アカゲラ、チゴハヤブサ、 <b>サンショウクイ</b> 、サンコウチョウ、コクマルガラス、 <b>キクイタダキ</b> 、 <b>ヤブサメ</b> 、ゴジュウカラ、キバシリ、 <b>コムクドリ</b> 、クロツグミ、ムギマキ、ハギマシコ、イスカ
要注目種	2種	オオミズナギドリ、ウミネコ
※リスト外に移行した種	1種	オオバン

赤字: アップリスト種    緑字: ダウンリスト種    青字: 新規掲載種